

質性病変を有する50症例を対象とした。50%の症例でGHRP-2に対してGHがある程度(1.8 ng/ml以上)の増加反応を示した。低反応の群(L群)ではある程度反応した群(M群)に比べてIGF-Iは低値であり、GH以外の下垂体ホルモンの障害数は多く、高血圧、脂質異常症、糖尿病の合併症を2つ以上有する症例が多く認められた。これらGHRP-2にある程度反応する成人GHD症例では今後GHRP-2の点鼻製剤による治療の可能性も示唆された。

下垂体部腫瘍手術前後におけるITTあるいはアルギニンテストとGHRPテストとの対比

従来のGH分泌能判定法であるインシュリン低血糖負荷試験(以下ITT)あるいはアルギニン負荷テスト(Arg.t)とGHRP負荷試験(以下GHRPt)を比較検討した。下垂体部腫瘍68例の治療前後でのべ113回、従来法GH負荷試験(ITTあるいはArg.t)とGHRPtを行い同時にIGF-Iを測定した。従来法の結果により重症GHD(以下sGHD)、中等症GHD(以下moderate GHD)、GH分泌予備能低下(以下subnormal)、正常に分類し、GHRPtと比較した。従来法とGHRPテストの相関は比較的良好であったが従来法とGHRPテストで異なる結果を示した症例が11例存在した。従来法でsGHDと診断される症例におけるGHRPテストの感度は90.9%、特異度は88.4%であった。正常例(GH頂値が6.0ng/ml以上)と非正常例(GH頂値が6.0ng/ml未満)を区別するGHRPtにおけるカットオフポイントは感度、特異度曲線において18.3ng/mlであった。GHRPtは安全性、再現性に優れ、sGHDの診断には有用であるが従来法との結果の解離もあり軽症GHDや正常例のカットオフポイントを定めるには更なる症例の蓄積が必要である。

原発性、続発性副腎皮質機能不全症患者における糖質コルチコイド補充療法の現状と問題点

自験例の検討範囲では選択的なコルチゾール分泌障害に伴うヒドロコルチゾンのみの補充療法による副作用(耐糖能障害、高脂血症)発現頻度は、複合ホルモン欠損症の病態を呈する続発性副腎皮質機能不全症の場合に較べて明らかに少なく、続発性の場合には他のホルモン欠落(GHや性ステロイド)の重要性を窺わせた。唾液コルチゾールの日内リズムの測定がコートリル補充量の適量指標となり得るかを検討するため、一部の副腎不全症例で、10mgコートリル補充中の唾液中遊離コルチゾール値濃度の推移を検討したが、服用時の唾液コルチゾール値は、生理的レベルを越える変動を示した。真に不適切な補充量を反映する結果なのか、唾液コルチゾール測定上、特有の問題点なのか、今後、さらに検討を有する。

グレリン受容体作動薬による成長ホルモン分泌不全症治療の可能性 — 高齢ラットを使用したGHRP-2作用に関する予備的検討 —

成人成長ホルモン分泌不全症(Adult Growth Hormone Deficiency, AGHD)に対してGrowth Hormone-Releasing Peptide(GHRP)が有効であるか検討する目的で、若年ラットに比べ血中GH、IGF-I値が低下している高齢ラットをモデルとし、GHRP-2を長期投与し、その効果を検討した。GHRP-2の皮下投与(10mg/kg、2回/日、60日間)は、12ヶ月齢のSD系雄ラットにおいて、体重、血中GH値を増加させた。血糖、脂質には影響を及ぼさなかった。一方、100mg/kgのGHRP-2の投与効果は、明瞭なものではなく、脱感作が生じた可能性が否定できなかった。10mg/kgのGHRP-2投与はヒラメ筋筋線維断面積を増加させ、筋萎縮を抑制する可能性が示唆された。10mg/kgおよび100mg/kgのGHRP-2投与で、筋蛋白分解を促進するatrogin-1、MuRF1の発現は減少したが、ヒラメ筋筋線維断面積への効果は10mg/kgGHRP-2投与時のみ観察されたこ

とから、この効果は単にatrogen-1、MuRF1の発現減少によるものではない可能性が考えられた。

自己免疫性視床下部下垂体炎/複合下垂体ホルモン欠損症

下垂体で高発現する遺伝子の先天性下垂体ホルモン複合欠損症での解析

これまで下垂体ホルモン複合欠損症の病因となりうる新規の下垂体特異的な遺伝子をBodyMap法や公開されたデータベースを用いて明らかにしてきた。さらに、本邦で報告されたAVPを含む先天性下垂体ホルモン複合欠損症の男子同胞例2家系を対象に、下垂体でよく発現する遺伝子の中から染色体座がX染色体上にある2つの遺伝子（FLJ30058、HTATSF1）と、最近下垂体機能低下症の病因遺伝子として明らかにされたSOX3を病因候補遺伝子として検討した。症例のゲノムDNAの塩基配列をPCR-直接塩基配列決定法により解析したところ、両家系ともFLJ30058、HTATSF1、SOX3遺伝子の蛋白コード領域には患者に特異的な塩基置換を認めなかった。また、両家系の同胞間ではXq25-26に遺伝子多型を1つずつ認めたので、病因遺伝子は常染色体上などXq26以外の領域に存在することが示唆された。

家族性の先天性下垂体ホルモン複合欠損症での全ゲノムSNP解析

本邦で報告されたAVPを含む先天性下垂体ホルモン複合欠損症の男子同胞例2家系の病因候補として5遺伝子を検討してきたが、蛋白コード領域には患者に特異的な塩基置換を認めず、一番可能性の強い伴性劣性遺伝の病因遺伝子のあるX染色体では両家系でXq25-26に遺伝子多型を1つずつ認めた。病因遺伝子がXq26以外のX染色体や常染色体のどのような領域に存在する可能性があるかを詳細にゲ

ノム全体について家系内連鎖で検討するために、AVPを含む先天性下垂体ホルモン複合欠損症の男子同胞例1家系に於いてMapping Array（MicroArray）を用いたSNP解析を行った。その結果、X染色体では153Mb余りの内、135Mbpから138Mbpにかけてにのみ同胞間でSNPの多型を認め、X染色体の大部分の残る領域ではSNPの多型を認めず母の同一のアリル由来であり、伴性劣性遺伝の病因遺伝子が存在する可能性が残存することを明らかにした。ゲノム全体のSNP解析は、病因遺伝子が存在する可能性のある染色体領域を詳細に絞り込むのに極めて有効であった。

下垂体腫瘍

非機能性下垂体腺腫におけるSomatostatin Receptor(SSTR)subtype発現に関する検討

非機能性下垂体腺腫（clinically nonfunctioning adenoma:CNFA）におけるSomatostatin Receptor（SSTR） subtype 発現、その中で主にSSTR2Aに関して臨床病理学的検討を行った。免疫組織化学的検討およびリアルタイムRT-PCR による発現解析の結果、gonadotroph adenoma（Gn-oma）はnull cell adenomaに比較しSSTR2Aの発現が高かった。Gn-omaの中にはSSTR2A陽性細胞が50%以上である症例が認められ、さらにOctreotide高感受性GH産生腫瘍と同程度に発現している症例も存在した。内科学的治療法の乏しいとされるCNFAであるが、gonadotroph adenomaの中にはOctreotideなどの効果が期待できる症例が存在する可能性が示唆された。

下垂体腺腫におけるMENIN並びにp27(Kip1) mRNAの発現

MENINは多発性内分泌腺腫症1型の原因遺伝子MEN1の遺伝子産物であるが、MENINの

異常による腺腫発症機構については不明な点が多い。近年、MENINがp27(Kip1)遺伝子の発現を制御していることが報告され、MENINの機能異常によりp27の発現が抑制されることがMENtype1の発症に関与することが報告された。そこで、散発性の下垂体腺腫においてMENIN並びにp27のmRNAの発現について検討した。正常下垂体2例、非機能腺腫5例、GH産生腺腫5例、プロラクチノーマ5例、ACTH産生腺腫1例、TSH産生腫瘍1例からtotal RNAを抽出し、リアルタイムPCRにてMEN1、p27、GAPDH mRNA量を測定した。その結果、全下垂体腺腫においてp27mRNA、MEN1 mRNAともに正常下垂体より発現が低下しており、さらにMEN1 mRNAとp27mRNAの発現に有意な相関が認められた。従って、散発性下垂体腺腫においてもMENIN-p27系が抑制されていることが腫瘍発生に関与している可能性が示唆された。

下垂体腫瘍形質転換遺伝子 (PTTG) による腫瘍形成機構の解明に関する研究

ヒト下垂体腺腫 (51例) におけるPTTG発現とホルモン、血管形成因子との関連性を解析し、下垂体腫瘍形成および機能分化へのPTTGの関与について検討を行った。免疫組織化学および定量的RT-PCR法にて、下垂体腺腫におけるPTTG、血管形成因子 (VEGF) の発現解析を行った。また、下垂体由来の腫瘍 (ACTH) 細胞株であるAtT-20を用いて、PTTGの細胞内局在を免疫電顕法により検討した。正常下垂体に比較してヒト下垂体腺腫では、PTTGの発現が有意に高いことが判明した。更に、GHomaでは腺腫中のPTTG発現とVEGF発現、血管数との間に有意な相関関係が認められ、PTTGが血管新生を誘導し腫瘍の進展を促進することが示唆された。一方、免疫電顕法による観察によりマウス下垂体培養細胞AtT-20ではPTTG

はゴルジ装置および分泌顆粒内に局在することが判明した。下垂体腫瘍中のPTTGが分泌蛋白としてパラクライン・オートクライン的に機能する可能性が強く示唆された。

下垂体偶発腫における増殖マーカーの発現

下垂体偶発腫の増殖活性について免疫組織学的手法(IHC)を用いて評価した。対象は下垂体偶発腫52症例。内訳はgonadotroph cell adenoma 22例、null cell adenoma 21例、潜在性機能性腺腫9例であった。また、視力視野障害にて発生した症候性非機能性腺腫43例と下垂体偶発腫43例 (潜在性機能性腺腫9例を除く) について、各々の増殖マーカーの発現を比較検討した。細胞増殖マーカーとしてはKi-67 (MIB-1) とTopoisomerase II α (TopoII α) を用いた。MIB-1 indexの平均は0.61%であった。年齢、性別、前葉ホルモンのIHCによる分類など、各パラメーターごとに分類したMIB-1 indexでは明らかな有意差は認めなかった。症候性非機能性腺腫との比較では年齢によるパラメーターでは有意差は認めず、サイズによるパラメーターではMIB-1 indexにおいて、小さなサイズの腫瘍群(1.5cm以下)にて下垂体偶発腫群が症候性非機能性腺腫群より有意に低値を示した。TopoII α indexでは海綿静脈洞への浸潤度が低い腫瘍群にて下垂体偶発腫群が有意に低値を示した。小さく、浸潤度が低い偶発腫群ではMRIで経過を追うべきであるという見解を持っているが、増殖活性という点においてもそれらが適当であるということが示唆された。

TSH産生腺腫のソマトスタチン受容体、TRH受容体及び甲状腺ホルモン受容体 β mRNAの発現：各種下垂体腺腫との比較

TSH産生腺腫ではソマトスタチン受容体 (sstr) が腫瘍に発現していることからオクトレオチドが甲状腺機能の正常化と縮小効果を目

的に使用される。しかし、sstrサブタイプの発現の系統的解析は少なく、さらに治療効果との関連も不明である。治療により腫瘍が著明に縮小した症例、他の種類の下垂体腺腫も含めsstr 1-5、TRH受容体並びに甲状腺ホルモン受容体のmRNAの発現を測定し治療効果などと比較検討した。その結果、TSH産生腺腫ではsstr1, 2A, 3, 5 mRNAが発現し、sstr2 mRNAが正常下垂体、他の下垂体腺腫と比較して高発現していた。腫瘍が著明に縮小した症例では、他の腺腫と比較してsstr2 mRNAが最も高発現であったが、sstr5mRNAが特徴的に高発現を示していた。そのため、オクトレオチドの腫瘍縮小効果にはsstr 2,5 mRNAの高発現が重要であると考えられた。さらに、TSH産生腺腫では甲状腺ホルモン受容体は発現は正常に近いが、TRH受容体mRNAは低発現であることなどが判明した。

ヒト下垂体腺腫におけるNOTCHシグナル分子の発現解析 —正常との比較より—

下垂体分化の初期、特にPOMCとProp1/Pit1系譜への分化に重要なNotchシグナル伝達に注目して、ヒト下垂体腺腫におけるその機能的役割を明らかにする。ヒト下垂体腺腫43例および正常下垂体3例について、NOTCH1、NOTCH3およびリガンド(JAGGED1、JAGGED2)の免疫組織化学染色を試行し、その発現と細胞内局在を解析した。正常下垂体においてはNOTCH1がGH細胞の、NOTCH3がACTH細胞の細胞質に陽性であった。また、JAGGED1はGH細胞、JAGGED2はゴナドトロピン細胞およびPRL細胞に陽性であった。一方、下垂体腺腫においては、GH産生腺腫の8割にJAGGED2の細胞膜陽性がみられ、全例でNOTCH3が核に陽性であった。さらに、TSH産生腺腫ではNOTCH1が核に陽性で、全例にJAGGED2が細胞膜に陽性であった。ヒト下垂

体では腺腫化に伴うNOTCHシグナル伝達の亢進が考えられた。また、腺腫間でレセプターの核陽性およびリガンドの細胞膜陽性パターンが異なることから、下垂体腺腫の機能分化におけるNOTCHシグナル伝達の関与が強く示唆された。

散発性下垂体腺腫におけるmenin/MLL-p27 mRNA発現

MEN1型の原因遺伝子産物であるmeninはMLLと複合体を形成しヒストンメチルトランスフェラーゼ活性を有しp27Kip1やp18Ink4C遺伝子発現を制御している。MEN1型では変異によりこれらの発現が低下し腫瘍が発生する。そこで、散発性下垂体腺腫におけるこれらの遺伝子発現について解析するため、正常並びに各種下垂体腺腫51症例のMLL、Men1、p27Kip1、p18Ink4C mRNA量を測定し臨床像と比較検討した。さらにMLL、meninのp27Kip1発現への影響を下垂体腺腫細胞株を用いて検討した。その結果、下垂体腺腫ではMLL、Men1、p27Kip1、p18Ink4C mRNAの発現量はいずれも低下し、MLLとp27 mRNA発現量に強い相関を認めた。さらに、GH4C1細胞では、MLLの過剰発現によりp27mRNA量並びにプロモーター活性は増加したが、meninは影響を及ぼさなかった。従って、下垂体腺腫におけるp27Kip1発現制御にはMLLが関与し、散発性下垂体腺腫においては、このMLL-p27経路の異常があり、腫瘍発症の一因となっていることが示唆された。

機能性下垂体腺腫のホルモン過剰分泌のしくみに関する研究

GH産生腺腫、ACTH産生腺腫、プロラクチン産生腺腫などの機能性下垂体腺腫からの過剰のホルモン分泌は、それらの疾患の症状を引き起こすばかりでなく、多くの場合生命予後も影響する。2光子励起法を用いたヒト下

垂体腺腫からのホルモン分泌の観察と膜電位の記録で自発分泌のメカニズムを調べた。正常細胞としては、ラット下垂体細胞クラスターを用いた。GH産生下垂体腺腫では約半数で、プロラクチン産生腺腫ではほぼ全例で自発分泌を観察した。ACTH産生腺腫では自発分泌を観察できた例は少なかった。正常ラットGH細胞、ACTH細胞は自発分泌を認めなかった。正常ラットプロラクチン細胞の自発分泌については一定しない観察結果であった。GH産生腺腫についてperforated whole-cell clamp法で膜電位を観察すると、一部に（正常ラットGH細胞で認めない）自発性の活動電位を記録できた。この自発性の活動電位の発火が自発分泌のもととなっている可能性が考えられた。

下垂体偶発腫自然歴から予測した下垂体部腫瘍の増大因子

近年、下垂体偶発腫に接する機会が増加しているが、治療方針を決定する上でその自然史を分析することは重要である。日本医科大学脳神経外科でこれまでに193例（男80例、女113例、14-80歳）を経験しており診断時において、その内84例を手術、109例を経過観察（平均27.5ヶ月）とした。観察例においては、腫瘍径不変が最も多く77例（70.6%）、増大10例（9.2%）、縮小20例（18.4%）、縮小後増大2例（1.8%）であった。推定診断は下垂体腺腫33例（30.3%）、ラトケ嚢胞41例（37.6%）、その他の嚢胞11例（9.2%）、その他24例であった。経過観察後の増大例は、腺腫推定例33例中9例（27.3%）であったのに対し、ラトケ嚢胞推定例41例中増大例は無く、不変26例（63.4%）、縮小13例（31.7%）、縮小後増大2例（4.9%）であり、他の嚢胞推定例も大部分が不変であった。以上より下垂体部の実質性病変は2年余りの期間に約30%の例で増大することが予測できる。一方、嚢胞性病変はこの期間内では基本的にサイズ

の増大は無く、特にラトケ嚢胞推定例では縮小することも期待できる。これらの結果は、以前本学会で報告した全国調査の結果とほぼ同様であった。以上の結果より、鞍上部に進展する実質性病変には手術適応があるが、その他の偶発腫は無症候の間は経過観察でよいと考えられる。

ラトケ嚢胞の治療成績と治療方針についての検討

下垂体偶発腫にラトケ嚢胞推定例は多く、その治療方針については議論の多いところである。そこで、手術を行ったラトケ嚢胞の診断および治療成績につき報告し、その治療方針につき考察した。手術を行ったラトケ嚢胞82例の内訳は男性28例、女性54例で年齢は14-80歳（平均48.6歳）であった。術式は経蝶形骨手術が79例、開頭術が3例で手術戦略は嚢胞壁の部分切除と、内容液の吸引、嚢胞内洗浄を行った。臨床症状は視機能障害51例（62.2%）、内分泌異常24例（29.3%）、頭痛15例（18.3%）、眼球運動障害3例（3.7%）、髄膜炎2例（2.4%）で、偶発腫が5例（6.1%）であった。術中所見は、白～黄白色の粘液が52例（63.4%）と最も多くMRI所見は様々であった。再発による再手術は4例に施行され、比較的高齢者に多かった（平均66.5歳）。合併症は永続的な尿崩症が1例に認められた。従来の嚢胞壁の部分摘出および内容液の吸引で比較的良好な成績が得られた。一方、高齢者は再発の危険性もあり、厳密な経過観察が必要である。今後、内分泌・病理学的所見も含め、治療成績をさらに詳細に検討する必要がある。

疫学

間脳下垂体機能障害の長期予後追跡調査法に関する研究

間脳下垂体機能障害は、経過が長期に渡る

ものが多いため、経過を単に生命予後のみで把握するだけでなく、症候・合併症、ADL等を指標とした健康余命についても評価することが望まれる。その結果は臨床医療および公衆衛生行政にとって重要な基礎資料となる。本研究班ではこれまで、国内外の予後調査の方法を参考にしつつ、間脳下垂体機能障害の前向き長期予後調査の実施方法、解析方法についての研究計画をたててきた。調査は、①担当医から患者への説明と協力依頼、②担当医からデータセンターへの患者登録、③長期に渡る継続的な毎年の追跡調査を行う。「疫学研究に関する倫理指針」に沿って倫理面に慎重に配慮して実行する。統計解析は、①臨床疫学像把握のための単純集計・クロス集計、②一般集団との死亡率等の比較をするためのSMR等の計算、③登録時の状態（症候、検査値、画像、治療、治癒状況）とその後の生命予後・合併症・ADLとの関連を明らかにするための縦断解析、④登録時以降の経時的な状態変化と生命予後・合併症・ADLとの関連を明らかにするための縦断解析を行う。

間脳下垂体疾患データベースの登録状況

平成18年度よりデータベースへの登録が開始された。2007年12月末現在で、先端巨大症45例、プロラクチノーマ24例、クッシング病9例、下垂体機能低下症54例、バソプレシン分泌低下症26例、計158例が登録された。これまでの入力状況を確認し、一部の基本集計を試みた。

E 結論

間脳下垂体機能障害による視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの分泌異常症の病因、病態を解明し、有用な診断治療法を確立することを目的とし、様々な臨床研究、in vivo、in vitro実験が行なわれ、多くの成果が得られた。この

成果は、新たな間脳下垂体機能障害の診断法、治療法を開発するうえで有用であると考えられる。

F 健康危険情報

なし

G 研究発表

論文発表

英文原著 301 編

H 知的財産権の出願・登録状況

特許出願中：アクアポリン2遺伝子を保持する腎性尿崩症治療用組換えベクター

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

Ⅶ. 研究成果の刊行に関する一覧表

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yamaguchi T, T Sugimoto, M Yamauchi, Y Matsumori, M Tsutsumi, K Chihara	Multiple vertebral fractures are associated with refractory reflux esophagitis in postmenopausal women	J Bone Miner Metab	23	36-40	2005
Naito J, H Kaji, H Sowa, G N Hendy, T Sugimoto and K Chihara	Menin suppresses osteoblast differentiation by antagonizing the AP-1 factor, JunD	J Biol Chem	280	4785-4791	2005
Mei-Fway lu, Hiroshi Kaji, Hideaki Sowa, Junko Naito, Toshitsugu Sugimoto and Kazuo Chihara	Dexamethasone suppresses Smad3 pathway in osteoblastic cells	Journal of Endocrinology	185	131-138	2005
Kazuo Chihara, Ekaterina Koledova, Akira Shimatsu, Yuzuru Kato, Hitoshi Kohno, Toshiaki Tanaka, Akira Teramoto, Peter C Bates and Andrea F Attanasio	An individualized GH dose regimen for long-term GH treatment in Japanese patients with adult GH deficiency	European Journal of Endocrinology	153	57-65	2005
Mei-Fway Iu, Hiroshi Kaji, Junko Naito, Hideaki Sowa, Toshitsugu Sugimoto, Kazuo Chihara	Low-dose parathyroid hormone and estrogen reverse alkaline phosphatase activity suppressed by dexamethasone in mouse osteoblastic cells	J Bone Miner Metab	23	450-455	2005
Hiroshi Kaji, Mika Yamauchi, Kazuo Chihara and Toshitsugu Sugimoto	The threshold of bone mineral density for vertebral fractures in female patients with primary hyperparathyroidism	European Journal of Endocrinology	153	373-378	2005
Nobuya Maeda, Fumio Kanda, Shiho Okuda, Hiroyuki Ishihara, Kazuo Chihara	Transforming growth factor- β enhances connective tissue growth factor expression in L6 rat skeletal myotubes	Neuromuscular Disorders	15	790-793	2005
H.Kaji, M.Kanatani, T.Sugimoto, K.Chihara	Statins Modulate the Levels of Osteoprotegerin/ Receptor Activator of NF κ B Ligand mRNA in Mouse Bone-cell Cultures	Horm Metab Res	37	589-592	2005

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hiroshi Kaji, Rieko Kosaka, Mika Yamauchi, Kaoru Kuno, Kazuo Chihara and Toshitsugu Sugimoto	Effects of Age, Grip Strength and Smoking on Forearm Volumetric Bone Mineral Density and Bone Geometry by Peripheral Quantitative Computed Tomography: Comparisons between Female and Male	Endocrine Journal	52(6)	659-666	2005
Kasono K, Saito T, Saito T, Tamemoto H, Yanagidate C, Uchida S, Kawakami M, Sasaki S, and Ishikawa S	Hypertonicity regulates the aquaporin-2 promoter independently of arginine vasopressin.	Nephrol. Dial. Transplant.	20 (3)	509-515	2005
Tien PG, Kayama F, Konishi F, Tamemoto H, Kasono K, Hung NTK, Kuroki M, Ishikawa S, Van CN, and Kawakami M	Inhibition of tumor growth and angiogenesis by water extract of Gac fruit (<i>Momordica cochinchinensis</i> Spreng).	Int. J. Oncol.	26 (3)	881-889	2005
Ishikawa S	Amphotericin B-induced nephrogenic diabetes insipidus.	Intern Med	44 (5)	403	2005
Kawano T, Saito T, Yasu T, Saito T, Nakamura T, Namai K, Tamemoto H, Kawakami M, Saito M, and Ishikawa S	Close association of hypoadiponectinemia with arteriosclerosis obliterans and ischemic heart disease.	Metabolism	54 (4)	653-656	2005
石川三衛	体液調節とむくみ	第19回「大学と科学」公開シンポジウム みずみずしい体のしくみ講演収録集、クバプロ、東京		130-138	2005
鈴木尚、神田大、草鹿元、大森義男、石川三衛、篠田宗次	SIADHにて発症した下垂体腺腫例	日本内分泌学会雑誌	81 (Suppl.)	164-165	2005
Saito T, Kawano T, Saito T, Ikoma A, Namai K, Tamemoto H, Kawakami M, and Ishikawa S	Elevation of serum adiponectin levels in Basedow disease.	Metabolism	54 (5)	1461-1466	2005
Ueba H, Kuroki M, Kashimoto S, Umemoto T, Yasu T, Ishikawa S, Saito M, Kawakami M	Glimepiride induces nitric oxide production in human coronary artery endothelial cells via a PI3-kinase-Akt dependent pathway.	Atherosclerosis	183 (1)	35-39	2005

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
M.Hayashi, H.Arima, M.Goto, R.Banno, M.Watanabe, I.Sato, H.Nagasaki, Y.Oiso	Vasopressin gene transcription increases in response to decreases in plasma volume, but not to increases in plasma osmolality, in chronically dehydrated rats.	Am J Physiol Endocrinol Metab	290	E213-7	2006
CP.Chu, K.Kato, QH.Jin. DL.Qiu, NS.Yu, Y.Oiso. H.Kannan	Enhanced cardiovascular alteration and Fos expression induced by central salt loading in a conscious rat transgenic for the metallothionein-vasopressin fusion gene.	Neuroscience Research	53	147-55	2005
Y.Sugimura, T.Murase, S.Takefuji, S.Hayasaka, Y. Takagishi, Y.Oiso, Y.Murata	Protective effect of dexamethasone on osmotic-induced demyelination in rats.	Experimental Neurology	192	178- 183	2005
Mochizuki T, Fujita K, Kuki I, Kimura T, Usui T, Shimatsu A	A 3-year-old girl with presenting precocious puberty: possible involvement of herbal medicine.	Clin Pediatr Endocrinol	14 (Suppl 22)	93-97	2005
Hanew K, Tachibana K, Yokoya S, Fujieda K, Tanaka T, Igarashi Y, Shimatsu A, Tanaka H, Tanizawa T, Teramoto A, Nishi Y, Hasegawa Y, Hizuka N, Hirano T, Fujita K	Studies of very short stature with severe GH deficiency: From the data registered with the Foundation for Growth Science.	Endocrine J	52(1)	37-43	2005
Saga T, Shimatsu A, Koizumi K, Ichikawa T, Yamamoto K, Noguchi S, Doi R, Ishibashi M, Machinami R, Nakamura K, Sakahara H, Endo K	Morphological imaging in the localization of neuroendocrine gastroenteropancreatic tumors found by somatostatin receptor scintigraphy.	Acta Radiologica	46(3)	227-232	2005
Chihara K, Koledova E, Shimatsu A, Kato Y, Kohno H, Tanaka T, Teramoto A, Bates PC, Attanasio AF	An individualized growth hormone (GH) dose regimen for long-term GH treatment in Japanese patients with adult GH deficiency (GHD).	Eur J Endocrinol	153(1)	63-69	2005
Usui T, Izawa S, Sano T, Tagami T, Nagata D, Shimatsu A, Takahashi JA, Naruse M	Clinical and molecular features of a TSH-secreting pituitary microadenoma.	Pituitary	In press		2006

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Tanaka T, Fujieda K, Yokoya S, Shimatsu A, Tachibana K, Tanaka H, Tanizawa T, Teramoto A, Nagai T, Nishi Y, Hasegawa Y, Hanew K, Fujita K, Horikawa R, Takada G, Miyashita M, Ohno T, Komatsu K	No improvement of adult height in non-growth hormone (GH) deficient short children with GH treatment.	Clin Peadiatr Endocrinol	In press		2006
Sato N, Shimatsu A, Yamada K, Aizawa-Abe M, Suganami T, Kuzuya H, Ogawa Y	Voglibose reduces oxidative stress markers and soluble inter-cellular adhesion molecule-1 by improving postprandial hyperglycemia and hyperlipidemia in obese type 2 diabetes.	Metabolism	In press		2006
古家美幸, 辻井 悟, 石井 均, 島津 章, 足立匡司, 和田洋巳, 須崎法幸, 桑山明夫	ペンテトレオドシンチが有用であった異所性ACTH症候群の1例	日本内分泌学会雑誌	81 Suppl 第15回臨床内分泌代謝 Update Proceeding	104-107	2005
伊澤正一郎, 白井 健, 長田太助, 田上哲也, 島津 章, 北条雅人, 高橋 潤, 橋本信夫, 成瀬光栄	TRHに対してTSHが反応したTSH産生下垂体マイクロアデノーマの1例	日本内分泌学会雑誌	81 Suppl 第15回臨床内分泌代謝 Update Proceeding	81-83	2005
島津 章	内分泌機能検査の基本、「臨床で出遭う内分泌疾患」	medicina	42(7)	1163-1165	2005
島津 章	成人GH分泌不全症の診断と診断基準、「成人におけるGHの大切な役割—成人GH分泌不全症の治療—」	ホルモンと臨床	53(8)	793-801	2005
K. Kageyama, K. Hanada, T. Moriyama, T. Nigawara, S. Sakihara, T. Suda	G protein-coupled receptor kinase 2 involvement in desensitization of corticotropin-releasing factor (CRF) receptor type 1 by CRF in murine corticotrophs.	Endocrinology	147	441-50	2006
H. Sashinami, K. Kageyama, T. Suda, A. Nakane	Urocortin 2 suppresses host resistance to Listeria monocytogenes infection via up-regulation of interleukin-10.	Endocrinology	146	5003-11	2005

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
T. Nigawara, Y. Iwasaki, M. Asai, M. Yoshida, M. Kambayashi, H. Sashinami, K. Hashimoto, T. Suda	Inhibition of 11β -hydroxysteroid dehydrogenase eliminates impaired glucocorticoid suppression and induces apoptosis in corticotroph tumor cells.	Endocrinology	147	769-72	2006
D. Chida, T. Imaki, T. Suda, Y. Iwakura	Involvement of corticotropin-releasing hormone- and interleukin (IL)-6-dependent proopiomelanocortin induction in the anterior pituitary during hypothalamic-pituitary-adrenal axis activation by IL-1 α .	Endocrinology	146	5496-502	2005
K. Kageyama, K. Hanada, T. Suda	Regulation of corticotropin-releasing factor receptor type 2 β mRNA by mitogen-activated kinases in aortic smooth muscle cells.	Regulatory Peptides	126	223-31	2005
T. Moriyama, K. Kageyama, Y. Kasagi, Y. Iwasaki, T. Nigawara, S. Sakihara, T. Suda	Differential regulation of corticotropin-releasing factor receptor type I (CRF ₁ receptor) mRNA via protein kinase A and mitogen-activated protein kinase pathways in rat anterior pituitary cells.	Molecular and Cellular Endocrinology	243	74-9	2005
K. Terui, M. Shoji, J. Yamashiki, Y. Hirai, A. Ishiguro, S. Tsutaya, K. Kageyama, M. Yasujima, T. Suda	A novel mutation of the thiazide-sensitive sodium chloride cotransporter gene in a Japanese family with Gitelman syndrome.	Clinical Nephrology	65	57-60	2006
K. Kageyama, K. Terui, M. Shoji, S. Tsutaya, E. Matsuda, S. Sakihara, T. Nigawara, T. Moriyama, M. Yasujima, T. Suda	Diagnosis of a case of Gitelman's syndrome based on renal clearance studies and gene analysis of a novel mutation of the thiazide-sensitive Na-Cl cotransporter.	Journal of Endocrinological Investigation	28	822-6	2005
K. Kageyama, T. Moriyama, S. Sakihara, S. Takayasu, T. Nigawara, T. Suda	Usefulness of the thyropropin-releasing hormone test in pre-clinical acromegaly.	Tohoku Journal of Experimental Medicine	206	291-7	2005
巽 圭太	下垂体ホルモン複合欠損症.	周産期医学	35	1591-1595	2005
田中敏章, 今井敏子	乳房発育の年齢標準値－思春期早発症の診断基準のために－	小児保健研究	64	33-38	2005
田中敏章, 今井敏子	縦断的検討による女兒の思春期の成熟と初経年齢の標準化	日本小児科学会雑誌	109	1232-1242	2005

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
田中敏章, 佐藤真理, 内木康博, 有滝健太郎, 堀川玲子, 池間直子, 西 美和, 野瀬 幸, 立花克彦	非内分泌性低身長症における 成人身長に対する成長ホルモ ン治療効果とGrowth Potential 法を用いた治療効果の検討	日本成長学会雑 誌	11	25-30	2005
K. Hanew, K. Tachibana, S. Yokya, K. Fujieda, T. Tanaka, Y. Igarashi, A. Shimatsu, H. Tanaka, T. Tanizawa, A. Teramoto, Y. Nishi, Y. Hasegawa, N. Hizuka, T. Hirano, K. Fujita	Studies of very severe short stau- ture with severe GH deficiency: From the data registered with the Foundation for Growth Science	Endocr J	52	37-43	2005
T. Tanaka, H. Niimi, N. Matsuo, K. Fujieda, K. Tachibana, K. Ohyama, M. Satoh, K. Kugu	Results of long-term follow-up after treatment of central preco- cious puberty with leuporelin acetate: evaluation of effective- ness of treatment and recovery of gandal function. The TAP- 144-SR Japanese Study Group on Central Precocious Puberty	J Clin Endocrinol Metab	90	1371-1376	2005
K. Chihara, E. Koledova, A. Shimatsu, Y. Kato, H. Kohno, T. Tanaka, A. Teramoto, P. C. Bates, A. Attanasio	An individualized GH dose regi- men for long-term GH treatment in Japanese patients with adult GH deficiency.	Eup J Endocrinol 1	53	57-65	2005
T. Tanaka, K. Tachibana, A. Shimatsu, N. Katsumata, T. Tshushima, N. Hizuka, K. Fujieda, S. Yokoya, M. Irie	A nationwide attempt to standard- ize growth hormone assays	Horm Res	64 (suppl 2)	6-11	2005
Kunihiko Hanew, Katsuhiko Tachibana, Susumu Yokoya, Kenji Fujieda, Toshiaki Tanaka, Yutaka Igarashi, Akira Shimatsu, Hiroyuki Tanaka, Takakuni Tanizawa, Akira Teramoto, Yoshikazu Nishi, Yukihiro Hasegawa, Naomi Hizuka, Takeki Hirano and Keinosuke Fujita ;GH Treatment Study Committee, The Foundation for Growth Science, Japan.	Studies of very severe short sta- ture with severe GH deficiency: from the data registered with the foundation for growth science.	Endocrine Journal	52(1)	37-43	2005

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Akira Matsuno, Tadashi Nagashima, Johbu Itoh, Naoko Sanno, Akira Teramoto and R. Yoshiyuki Osamura.	Histopathological review of silent pituitary somatotroph adenoma.	Acta Histochem. Cytochem	38(3)	217-221	2005
Akira Matsuno, Tadashi Nagashima, Johbu Itoh, Naoko Sanno, Akira Teramoto and R. Yoshiyuki Osamura.	Histopathological analyses of silent pituitary somatotroph adenoma.	Human Pathol	2	9-15	2005
Kazuo Chihara, Ekaterina Koledova, Akira Shimatsu, Yuzuru Kato, Hitoshi Kohno, Toshiaki Tanaka, Akira Teramoto, Peter C Bates and Andrea F Attanasio.	An individualized GH dose regimen for long-term GH treatment in Japanese patients with adult GH deficiency.	European Journal of Endocrinology	153	57-65	2005
Daizo Yoshida, Kyongsong Kim, Michio Yamazaki, Akira Teramoto.	Expression of hypoxia-inducible factor 1alpha and cathepsin D in pituitary adenomas.	Endocr Pathol	16(2)	123-31	2005 Summer
寺本 明	経蝶形骨下垂体手術のスタンダードとバリエーション	脳神経外科ジャーナル	14(1)	18-21	2005
寺本 明	経蝶形骨下垂体手術—その2—	脳神経外科速報	15(10)	920-925	2005
Taguchi T, Takao T, Iwasaki Y, Nishiyama M, Asaba K, Hashimoto K.	Suppressive effect of DHEA and NF-kB inhibitor parthenolide on corticotroph tumor cell growth and function in vitro and in vivo.	J Endocrinol	188	In press	2006
Nigawara T, Iwasaki Y, Asai M, Yoshida M, Kabayashi M, Sashinami H, Hashimoto K, Suda T.	Inhibition of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase eliminates impaired glucocorticoid suppression and induces apoptosis in corticotroph tumor cells.	Endocrinology	147	769-772	2006
Hashimoto K, Maruyama H, Nishiyama M, Asaba K, Ikeda Y, Takao T, Iwasaki Y, Kumon Y, Suehiro T, Tanimoto N, Mizobuchi M, Nakamura T.	Susceptibility alleles and haplotypes of human leukocyte antigen DRB1, DQB1, DQA1, and DQB1 in autoimmune polyglandular syndrome type III in Japanese population	Hormone Res	64	253-260	2005

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Miyoshi T, Otsuka F, Suzuki J, Inagaki K, Takeda M, Kano Y, Yamashita T, Ogura T, Date I, Tanaka Y, Hashimoto K, Makino H.	Periodic secretion of adrenocorticotropin in a patient with Cushing's disease manifested during pregnancy.	Endocr J	52(3)	287-292	2005
Otsuka F, Miyoshi T, Murakami K, Inagaki K, Takeda M, Ujike K, Ogura T, Omori M, Doihara H, Tanaka Y, Hashimoto K, Makino H.	An extra-adrenal abdominal pheochromocytoma causing ectopic ACTH syndrome.	Am J Hypertens	18(10)	1364-1368	2005
Makino S, Tanaka Y, Nazarloo HP, Noguchi T, Nishimura K, Hashimoto K.	Expression of type 1 corticotropin-releasing hormone (CRH) receptor mRNA in the hypothalamic paraventricular nucleus following restraint stress in CRH-deficient mice.	Brain Res	28;1048 (1-2)	131-137	2005
Miyoshi T, Otsuka F, Takeda M, Inagaki K, Suzuki J, Ogura T, Date I, Hashimoto K, Makino H.	Effect of cabergoline treatment on Cushing's disease caused by aberrant adrenocorticotropin-secreting macroadenoma.	J Endocrinol Invest	27	1055-1059	2004
岩崎泰正、丸山博、次田誠、田口崇文、田中康司、西山充、高尾俊弘、橋本浩三	部分型バゾプレッシン分泌障害による多尿の発症機序	日本内分泌学会雑誌	81 Suppl. (June)	57-59	2005
Y. Okubo, M. Kurimoto, A Kawamata, Y. Ishikawa, O. Isozaki, N. Hizuka, I. Fukuda, T. Obara, K. Takano	Type I insulin-like growth factor receptor (IGF1R) expression and function in thyroid tissues from a patient with acromegaly.	Clin Pediatr Endocrinol	14 (Suppl 22)	37-41	2005
T. Tanaka, K. Tachibana, A. Shimatsu, N. Katsumata, T. Tsushima, N. Hizuka, K. Fujieda, S. Yokoya, M. Irie	A nationwide attempt to standardize growth hormone assays.	Horm Res	64 (Suppl 2)	6-11	2005
K. Hanew, K Tachibana, S. YOkoa, K. Fujieda, T. Tanaka, Y. Igarashi, A. Shimatsu, H. Tanaka, T. Tanizawa, A. Teramoto, Y. Nishi, Y. Hasagawa, N Hizuka, T. Hirano, K Fujita	Studies of Very Severe Short Stature with Severe GH Deficiency: From the Data Registered with the Foundation for Growth Science.	Endocr J	52	37-43	2005

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
K. Nakajima, E. Hashimoto, H. Kaneda, K. Tokushige, K. Shiratori, N. Hizuka, K. Takano	Pediatric nonalcoholic steatohepatitis associated with hypopituitarism.	J Gastroenterol	40	312-315	2005
福田いずみ, 肥塚直美, 石川夕記子, 盛田順子, 栗本真紀子, 村上祐子, 佐田晶, 大久保由美子, 安本久美子, 高野加寿恵	先端巨大症におけるインスリン抵抗性と血中アディポネクチン値	日本内分泌学会雑誌	81(Suppl Sep)	68-69	2005
福田いずみ, 肥塚直美, 石川夕記子, 大久保由美子, 村上祐子, 佐田晶, 盛田順子, 栗本真紀子, 高野加寿恵	低血糖を呈するIGF-II産生腫瘍78例の臨床像の検討	日本内分泌学会雑誌	81(Suppl June)	5-6	2005
原田千絵, 磯崎収, 肥塚直美, 吉原愛, 小野昌美, 川俣貴一, 久保長生, 堀智勝, 高野加寿恵	TSH産生下垂体腺腫7症例における臨床的検討	日本内分泌学会雑誌	81(Suppl June)	62-64	2005
吉原愛, 磯崎収, 肥塚直美, 原田千絵, 小野昌美, 川俣貴一, 久保長生, 堀智勝, 高野加寿恵	TSH産生腺腫におけるソマトスタチン受容体サブタイプ発現の解析	日本内分泌学会雑誌	81(Suppl Sep)	70-71	2005
栗本真紀子, 福田いずみ, 肥塚直美, 齋藤洋, 金田浩幸, 橋本悦子, 高野加寿恵	頭蓋咽頭腫術後の下垂体機能低下症に非アルコール性脂肪肝炎を認めた一例	日本内分泌学会雑誌	81(Suppl Sep)	162-163	2005
Fukai N., Yoshimoto T., Sugiyama T., Ozawa N., Hirata Y.	Concomitant expression of adrenomedullin and its receptor components in rat adipose tissues.	Am.J.Physiol. Endocrinol. Metab.	288	E56-E62	2005
Izumiya H., Tanaka H., Egi K., Sunamori M., Hirata Y., Shichiri M.	Synthetic salusins as cardiac depressors in rat.	Hypertension	45	419-425	2005
Yoshimoto T., Gochou N., Fukai N., Sugiyama T., Shichiri M., Hirata Y.	Adrenomedullin inhibits angiotensin II-induced oxidative stress and gene expression in rat endothelial cells.	Hypertens.Res.	28	165-172	2005
Kouyama R., Suganami T., Nishida J., Tanaka M., Toyoda T., Kiso M., Chiwata T., Miymoto Y., Yoshimasa Y., Fukumizu A., Horiuchi M., Hirata Y., Ogawa Y.	Attenuation of diet-induced weight gain and adiposity through increased energy expenditure in mice lacking angiotensin II type 1a receptor.	Endocrinology	146	3481-3489	2005

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Sugiyama T., Yoshimoto T., Tsuchiya K., Gochou N., Hirono Y., Tateno T., Fukai N., Shichiri M., Hirata Y.	Aldosterone induces angiotensin converting enzyme (ACE) gene expression via JAK2-dependent pathway in rat endothelial cells.	Endocrinology	146	3900-3906	2005
Sugiyama T., Yoshimoto T., Hirono Y., Sakurada M., Tsuchiya K., Minami I., Iwashima F., Sakai H., Tateno T., Sato R., Hirata Y.	Aldosterone increases osteopontin gene expression in rat endothelial cells.	Biochem. Biophys.Res. Commun.	336	163-167	2005
Tsujino M., Sugiyama T., Nishida K., Takada Y., Takanishi K., Ishizawa M., Hirata Y.	Noninsulinoma pancreatogenous hypoglycemia syndrome: A rare case of adult-onset nesidioblastosis.	Intern.Med.	44	843-847	2005
Hirono Y., Doi M., Yoshimoto T, Kanno K., Himeno Y., Taki K., Sasano H., Hirata Y.	A case with primary aldosteronism due to unilateral multiple adrenocortical micronodules.	Endocrine J.	52	435-439	2005
Kanno K., Morokuma Y., Tateno T., Hirono Y., Taki K., Osamura R.Y., Hirata Y.	Olfactory neuroblastoma causing ectopic ACTH syndrome.	Endocrine J.	52	675-681	2005
Tsuchiya K., Minami I., Tateno T., Izumiyama H., Doi M., Nemoto T., Mae S., Kasuaga T., Osamura R.Y., Oki Y., Hirata Y.	Malignant gastric carcinoid causing ectopic ACTH syndrome: Discrepancy of plasma ACTH levels measured by different immunoradiometric assays.	Endocrine J.	52	743-750	2005
Tomaru T, Satoh T, Yoshino S, Ishizuka T, Hashimoto K, Monden T, Yamada M, Mori M.	Isolation and Characterization of a Transcriptional Cofactor and its Novel Isoform that Bind the DNA-Binding Domain of Peroxisome Proliferator-Activated Receptor γ .	Endocrinology	147	377-388	2006
Hashimoto K, Yamada M, Monden T, Satoh T, Wondisford FE, Mori M.	Thyrotropin-releasing hormone (TRH) specific interaction between amino terminus of P-Lim and CREB binding protein (CBP).	Mol Cell Endocrinol	229	11-20	2005
石井角保, 山田正信, 梅沢良平, 中島康代, 登丸琢也, 橋田哲, 渋谷信行, 橋本貢士, 門伝剛, 佐藤哲郎, 森昌朋	【分子甲状腺学の進歩2005】 甲状腺ホルモン不応症における Thyrotropin-Releasing Hormone(TRH)遺伝子のヒストン脱アセチル化動態異常	ホルモンと臨床	53	91-95	2005

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
有田 和徳, 栗栖 薫, 杉山 一彦, 富永 篤, 江口 国輝, 飯田 幸治, 花谷 亮典, 魚住 徹	合併症の推移から見た、末端 肥大症における"Consensus Meeting Criteria of Cure"の意義	日本内分泌学会 雑誌	79 (Suppl.)	48-49	2003
富永 篤, 栗栖 薫, 有田 和徳, 右田 圭介, 江口 国輝, 隅田 昌之, 魚住 徹	非症候性ラトケ嚢胞の治療方 針ーラトケ嚢胞の自然経過と 術後経過からの検討ー	日本内分泌学会 雑誌	79 (Suppl.)	80-82	2003
富永 篤, 栗栖 薫, 有田 和徳, 江口 国輝, 飯田幸治	経蝶形骨洞手術における顕微 鏡と内視鏡の併用	日本内分泌学会 雑誌	79 (Suppl.)	128-130	2003
K. Arita, K. Kurisu, K. Sugiyama, Y. Itoh, T. Hotta, T. Sogabe, T. Uozumi	Long term results of convention- al treatment of diencephalic pilo- cytic astrocytoma in infants.	Child Nervous System	19	145-151	2003
K. Arita, K. Kurisu, A. Tominaga, K. Eguchi, K. Iida, T. Uozumi, F. Kasagi	Mortality in 154 surgically treat- ed patients with acromegaly - A 10-year follow-up survey.	Endocrine journal	50	163-172	2003
有田和徳, 富永 篤, 栗栖 薫	専門医に求められる最新の知 識, 脳腫瘍, ラトケ嚢胞.	脳神経外科速報	13	1163-1171	2003
杉山 一彦, 有田 和徳, 栗栖 薫	頭蓋内胚細胞性腫瘍の今. -1990年以降の文献を中心とし た考察-	脳神経外科速報	13	31-40	2003
Y. Kanou, K. Arita, K. Kurisu, A. Tominaga, T. Akimitsu	Infundibuloneurohypophysitis presenting a large sellar- Juxtaseilar mass: Case report.	Surgical Neurology	61	278-282	2004
有田和徳, 栗栖 薫, 富永 篤	経蝶形骨洞手術に必要な微小 解剖-より安全な手術を目指し て-	顕微鏡下手術の ための脳神経外 科解剖	16	123-128	2004
K. Arita, K. Kurisu, A. Tominaga, K. Sugiyama, K. Eguchi, S. Hama, H. Yoshioka, F. Yamasaki, Y. Kanou	Relationship between intratumor- al hemorrhage and overexpres- sion of vascular endothelial growth factor (VEGF) in pitui- tary adenoma.	Hiroshima Journal of Medical Science	53	23-27	2004
K. Arita, K. Kurisu, Y. Kiura, K. Iida, H. Otsubo	Review- Hypothalamic hamarto- ma.	Neurologia medico- chirurgica	45	221-2316	2005
K. Arita, K. Kurisu, A. Tominaga, K. Sugiyama, K. Eguchi	Slow postoperative decline in blood concentration of insulin- like growth factor-1 (IGF-1) in acromegalic patients.	Endocrine Journal	52	125-130	2005

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
S. Hama, T. Kitaoka, M. Shigenobu, A. Watanabe, I. Imura, H. Seno, A. Tominaga, K. Arita, K. Kurisu	Malnutrition and nonthyroidal illness syndrome after stroke.	Metabolism	54	699-704	2005
富永 篤, 栗栖 薫, 有田和徳, 隅田昌之, 江口国輝	下垂体卒中中の治療-手術を急ぐべき症候は何か-	日本内分泌学会雑誌	81 (Suppl.)	107-109	2005
K. Arita, A. Tominaga, K. Sugiyama, K. Eguchi, K. Iida, M. Siumida, K. Migita, K. Kurisu	Natural course of incidentally found nonfunctioning pituitary adenoma with special reference to pituitary apoplexy during follow-up.	Journal of Neurosurgery	103	in press	2006
A.Nakamura, C.Shimizu, S.Nagai, S.Taniguchi, M.Umetsu, T.Atsumi, N.Yoshioka, Y.Ono, T.Tajima, M.Kubo, T.Koike T	A rare case of Gitelman's syndrome presenting with hypocalcemia and osteopenia.	J Endocrinol Invest	28	464-468	2005
H.Bando, T.Atsumi, T.Nishio, H.Niwa, S.Mishima, C.Shimizu, N.Yoshioka, R.Bucala, T.Koike	Phosphorylation of the 6-Phosphofructo-2-kinase/fructose 2,6-bisphosphatase/PFKFB3 Family of Glycolytic Regulators in Human Cancer.	Clin Cancer Res	11	5784-5792	2005
YC.Lee, Y.Higashi, C.Luu, C.Shimizu, CA.Strott	Sp1 elements in SULT2B1b promoter and 5'-untranslated region of mRNA: Sp1/Sp2 induction and augmentation by histone deacetylase inhibition.	FEBS Lett	579	3639-45	2005
T.Atsumi, T.Nishio, H.Niwa, J.Takeuchi, H.Bando, C.Shimizu, N.Yoshioka, R.Bucala, T.Koike	Expression of Inducible 6-Phosphofructo-2-kinase/Fructose-2,6-bisphosphatase/PFKFB3 Isoforms in Adipocytes and Their Potential Role in Glycolytic Regulation.	Diabetes	54	3349-3357	2005
R.Matsumoto, C.Shimizu, S.Nagai, S.Taniguchi, M.Umetsu, Y.Kimura, T.Atsumi, N.Yoshioka, M.Kubo, T.Koike	Cat-eye Syndrome with Isolated Idiopathic Hypogonadotropic Hypogonadism	Intern Med	44	1069-1073	2005
H.Niwa, C.Koumoto, T.Shiga, J.Takeuchi, S.Mishima, T.Segawa, T.Atsumi, C.Shimizu, T.Koike, N.Yoshioka	Clinical analysis of cognitive function in diabetic patients by MMSE and SPECT.	Diabetes Res and Clin Prac	in press		

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
S.Nagai, C.Shimizu, Y.Kimura, M.Umetu, S.Taniguchi, J.Takeuchi, T.Atsumi, N.Yoshioka, M.Kubo, T.Koike	A case of reversed pituitary dysfunction with intrasellar mass.	J Endocrinol Invest	in press		
A.Nakamura, C.Shimizu, S.Nagai, S.Taniguchi, M.Umetu, T.Atsumi, N.Wada, N.Yoshioka, Y.Ono, H.Sasano, T.Koike	Unilateral adrenalectomy improves insulin resistance and polycystic ovaries in a middle-aged woman with virilizing adrenocortical adenoma complicated with Cushing's syndrome.	J Endocrinol Invest	in press		
A.Nakamura, C.Shimizu, S.Nagai, S.Taniguchi, M.Umetu, T.Atsumi, N.Wada, N.Yoshioka, Y.Ono, Y.Tanizawa, T.Koike	A novel mutation of WFS1 gene in a Japanese man of Wolfram syndrome with positive diabetes-related antibodies.	Diabetes Res and Clin Prac	in press		
永井 聡、谷口 聡、 梅津正明、三島慎也、 瀬川竜二郎、田原たづ、 坂井恵子、西尾太郎、 渥美敏也、清水 力、 吉岡成人、小池隆夫	先端巨大症患者の耐糖能におよぼす酢酸オクトレオチドの長期効果の検討	糖尿病	48	317-323	2005
中村昭伸、清水 力、 小野百合、吉岡成人、 内田信一、佐々木 成、 小池隆夫	2型糖尿病発症を契機に発見された腎性尿崩症の一例	日本内分泌学会雑誌	81 suppl	10-12	2005
石井伸明、小林浩之、 岩崎喜信、谷口 聡、 梅津正明、清水 力	先端巨大症術後の成長ホルモンとIGF-1の正常化に要する期間についての検討：いつ判定し薬物療法を導入するか	日本内分泌学会雑誌	81(suppl)	85-88	2005
Hongo M, Kanatsuka H, Sugawara A, Nagasaki Y, Endo Y, Karahashi K, Shoji T, Sagami Y, Aoki I.	Primary care in the treatment of functional gastrointestinal symptoms in Japan: prescription preferences and impression of results.	Aliment Pharmacol Ther.	21 Suppl 2	47-54	2005
Chung BH, Li C, Sun BK, Lim SW, Ahn KO, Yang JH, Choi YH, Yoon KH, Sugawara A, Ito S, Kim J, Yang CW	Rosiglitazone protects against cyclosporine-induced pancreatic and renal injury in rats.	Am J Transplant.	5	1856-1867	2005
Uruno A, Sugawara A, Kanatsuka H, Kagechika H, Saito A, Sato K, Kudo M, Takeuchi K, Ito S	Up-regulation of nitric oxide production in vascular endothelial cells by all-trans retinoic acid through the phosphoinositide 3-kinase/Akt pathway.	Circulation.	112	727-736	2005